

Title	本研究会の活動（2012年4月～2012年9月）
Author(s)	
Citation	詞林. 2012, 52, p. 62-62
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/67649">https://hdl.handle.net/11094/67649</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

内秘密の術など積せる説あり。大なるあやまり也。なに事と条目をいふ程ならば、はや人にもいひきかせたるになりぬ。さるにとりては、物かたりにもしかくのいはれをかくへきか。かきあらはさぬにてしりぬ、えもいはぬ事なるへし。慈鎮和尚歌、

おもふ事なと問ふ人のなかるらんあふけは空に  
月そさやけき

とよみ給へるも、此物かたりの歌をおもへるにや。

※後人詠をゴシック、詠者を二重傍線、物語の詞を採ったという指摘部分を傍線で示した。

〔付記〕本稿は科学研究費補助金（特別研究員奨励費・課題番号・24・1276）を受けた成果の一部である。

（まつもと・おおき 本学大学院博士後期課程

・日本学術振興会特別研究員）

本研究会の活動（2012年4月～2012年9月）

第238回 4月28日（土）

『源氏物語』正編における季節表現の構想的利用

瓦井 裕子

『続千載和歌集』「誹諧歌」を読む

— 二条家撰者の勅撰集編集術 —

村山 識

第239回 5月19日（土）

『枕草子』の「をかし」「めでたし」「笑ひ」について

— 日記的章段を中心に —

楊 也

源氏物語の享受の一考察

— 謡曲「須磨源氏」の源氏の呼称を中心として — 越野 優子

第240回 6月30日（土）

『河海抄』巻九における諸本異同とその特徴 松本 大

真名本『曾我物語』における曾我兄弟の母

— 出家と女人往生の様相 — ルーンピロム・カナパット

第241回 8月25日（土）

『枕草子』自賛譚の一考察

金 起台

サイデンステッカー記『蜻蛉日記』をめぐって

— 新出資料『蜻蛉日記新釈』の紹介 —

丹下 暖子